164. 総合画像ファイリングシステム ーハード面についてー Total Image Filing System for Hardware

愛知県がんセンター病院 放射線診断部

○ 墨 光 明 中 島 地 康 岩 根 成
(Mitsuaki Sumi) (Kuniyasu Nakashima) (Mamomru Iwane)

《目的》当院では画像の一元管理を目的とし、デジタル画像ファイリングをCRを中心に進めて来た。従来導入し使用してきたFCRネットワークにCT、MRI、US、DSA等のモダリティの画像も接続できるようになった。今回、新ネットワークシステムについて報告する。

《使用装置》新ネットワークを構築するにあたり、新規導入した装置を以下に示し、各装置について詳述する。

・新集合型光ディスク画像ファイル装置

光ディスク（OD）は2.6GB→7GBに大容量化され、読取り専用であったライブラリー装置が両面読取り、書込み可能となった、収納数は64枚である。画像データの高速な読取り書込みのために2.1GBのハードディスク（HD）をバッファに持つ。また画像データはモダリティを問わず同一のODにファイリングされる。

・ネットワーク対応マルチフォーマット

画像データ管理装置とオペレーションパネルで構成され、他モダリティのCRネットワークへの接続を可能とした。入力4CH、出力2CH、ネットワーク用に1CH持つ。さらに2.8GBのHDをバッファに持つ。

・マルチモダリティ画像表示装置

画像を表示、検索するための装置で、マルチモダリティ表示のためのバージョンアップを行った。また、画像データ一時保管用の1GBのHDを内蔵している。このHDにCR読取装置からの画像、検索画像を一時保管する。

《総合画像ファイリングシステム》

◎従来の画像ファイリングシステム

◎新総合画像ファイリングシステム

《結果》

- ・同一光ディスクにCRと各モダリティの画像がファイリング可能となった。
- ・新光ディスク装置の高速化により検索等を含め画像へのアクセスが容易となった。
- ・画像表示装置の同一画面上で各種モダリティの観察が可能となった。
- ・従来使用していたCRネットワークが各種モダリティを含む総合画像ネットワークに発展した。